

紀尾井だより

11/12 November / December 2022 [Vol.156]

KCO名曲スペシャル
ニューイヤー・コンサート 2023

新シリーズ「邦楽 明日への扉」に寄せて

連載

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

Keyboard

鍵盤をめぐる3話

邦楽主催公演 2022年度下期 ラインナップ

紀尾井ホール室内管弦楽団 公開リハーサルご招待



KCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート 2023

協賛：日鉄ソリューションズ株式会社

紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)の2023年“弾きぞめ”は「ウィーン」です。新企画「KCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート」は、モーツァルトやシュトラウス・ファミリーなどウィーン三昧の3日間。指揮台には前首席指揮者で現名誉指揮者ライナー・ホーネックが帰ってきます。ウィーンの音楽を知り尽くすウィーン・フィル現役コンサートマスターが、KCOに戻ってくるのです。夏の終わり、ザルツブルク音楽祭やウィーン・フィルの欧州ツアーで多忙ななかにもかかわらず、インタビューに丁寧に答えてくれました。

KCOとの5年間を経て迎える ニューイヤー

今年3月まで2期5シーズンにわたってKCOの第2代首席指揮者を務めたホーネック。KCOとの時間を「相互リスベクト」だったと語る。

「私が指揮したのは年間3つのプロジェクトだけだったにもかかわらず、ともに音楽を作るなかで、お互いをとってもよく理解することができました。パンデミックの影響で、私がとても重要と考えていた継続が途切れざるをえなかったのは残念でしたけれど……」

新春のコンサートでは、モーツァルト、そしてシュトラウス・ファミリーのワルツ、ポルカなど、華やかなウィーンの音楽をたっぷり聴かせてくれる。

「KCOとの初めてのワルツ・プログラムがとても楽しみです。前半の《魔笛》序曲や、モーツァルトの有名なメロディがいくつも出てくるヨーゼフ・ランナーのワルツ《モーツァルト党》、そしてモーツァルトの素晴らしいヴァイオリン協奏曲第1番と



© ヒダキトモコ

の組み合わせも、とても興味深い。エキサイティングなコンサートになるでしょう」
**ウィーン・フィルの
新年コンサートの思い出**

世界が注目する元旦のウィーン・フィルのニューイヤー・コンサートの空気をそのまま運んで来てくれるはずだ。ウィーンでのコンサートが始まったのは1939年のこと（初回は大海日コンサート）。1961年生まれホーネックのいちばん古い記憶は1971年、9歳の時のニューイヤー・コンサートだそう。

「父が楽友協会に連れて行ってくれたのです。わが家にはテレビがなかったため、画面で見るとは先に、最高のクオリティでシュトラウスの音楽を聴くことができたわけです。ヴァイオリンを弾きながら指揮をするヴァイリー・ボスコフスキーがとても印象的だったのを憶えています」

しかも、いまだにその50年前のボスコフスキーが、もつとも忘れがたい経験なのだという。1984年にウィーン・フィルに入団し（1992年からコンサートマスター）、ニューイヤー・コンサートでも40年にわたってさまざまな指揮者と共演してきた豊富な演奏歴を持つても、だ。

「多くの人が、ニューイヤー・コンサートのベストはカラヤンとクライバーだと言います。もちろん私もそれに同意できますし、ほかの偉大な指揮者たちとも素晴らしい体験をしました。でも、いまだに私がつもつとも尊敬しているのは、一緒に演奏す



© ヒダキトモコ

ることのなかったボスコフスキーなのです（注：ボスコフスキーの最後のニューイヤー登場は1979年）。彼はシュトラウス・ファミリーの音楽に、非常にナチュラルでエレガントにアプローチしていました。戦後、ワルツをはじめとするシュトラウスの音楽が有名になる過程で、ボスコフスキーは重要な役割を果たしたと思います」

「ウィーンの音楽」伝統と誇り

「ウィーンの音楽」として括られるワルツやポルカだが、ウィーン以外のオーストリアの人々にとって、それはどれぐらい身近な存在なのだろう。ウィーン育ちのホーネック自身も、出身はオーストリア西端の小都市ネンツィングだ。

「世界中の人々がウィーンの音楽を愛していることを知れば知るほど、この音楽が生まれた街に住んでいることを誇りに思うのは自然なことです。」

一方で、ウィーン以外の人々は、シュトラウスの音楽の起源が伝統的なオーストリアの民俗音楽であることを知っています。オーストリア人なら誰でも知っている音楽なのです。シュトラウス・ファミリーやランナーたちは、伝統音楽の基本的なリズムやキャラクターを発展させ、よりスピーディーでエネルギーあふれる新しい音楽を作り上げました。しかし明らかに、そのルーツは素朴な民俗音楽にあります」

ウィнна・ワルツの独特の3拍子も、もちろん彼らの血の中にあるものなのだろう。でもウィーンの音楽家たちは、それをただ感性だけ

に任せて弾いているわけではないようだ。明確な理論を持っている。

「もしワルツの2拍目を早いタイミングで弾くべきだというなら、その理由を問うべきです。それはスイングする強拍の1拍目に対するリアクションであり、アクセントを付けて弾くのが理想的です。2拍目を、よりアクセントのある大きな音で、早く出すのが暗黙のルールなのです。そし

て忘れてならないのが3拍目。これは少し遅めに、アクセントなしで弾くことが重要です」

再会するホーネックに反応して、KCOはどんなウィнна・サウンドを奏でてくれるだろう。ちよつと気が早いけれど、年明けが待ち遠しい。

文／宮本明(音楽ライター)

日鉄ソリューションズ プレゼンツ
紀尾井ホール室内管弦楽団 特別演奏会
KCO名曲スペシャル
ニューイヤー・コンサート
2023

ウィーン・フィルの伝統に生きる
ライナー・ホーネック指揮・演奏で
新年の喜びを祝う
心躍るウィнна・ワルツ他名曲選。

モーツァルト
歌劇《魔笛》K.620より序曲
ヴァイオリン協奏曲第1番変ロ長調 K.207

ランナー
ワルツ《モーツァルト党》op.196

ヨーゼフ・シュトラウス
ポルカ・フランセーズ《小さな水車》op.57

ヨハン・シュトラウス2世
喜歌劇《こもり》より序曲 ポルカ・シュネル《チクタク・ポルカ》op.365
ワルツ《レモンの花咲くところ》op.364 新ビチカート・ポルカ op.449
ポルカ・シュネル《観光列車》op.281 ワルツ《南国のバラ》op.388
ポルカ・シュネル《山賊のギャロップ》op.378

2023 1/20 金 19:00
2023 1/21 土 14:00
2023 1/22 日 14:00

【出演】
指揮・ヴァイオリン
ライナー・ホーネック
紀尾井ホール室内管弦楽団

この公演に小学生以上18歳以下の皆さまをご招待
各日120席(計360席)

文化庁子供文化芸術活動支援事業



1月20日・21日・22日からご希望日の公演をお好きな座席を選んでお申込みください。

◆対象：小学生以上18歳以下の方(公演日基準)

◆申込み方法：次の(1)、(2)の2段階で申込が完了します。

(1) 紀尾井ホールウェブチケットでのご予約・座席引換券の発券

(2) ご招待情報登録フォーム(Googleフォーム)への入力

※ご招待につき入場は無料ですが、座席引換券の発券に所定の手数料がかかります。

文化庁子供文化芸術支援事業が新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、文化芸術の鑑賞や体験の機会の多くを失っている若い世代の方がたに本格的な演奏芸術に触れていただく取組みです。

詳しくは
こちらから





新シリーズ 「邦楽明日への扉」に寄せて

邦楽明日への

これまで、「邦楽探検 詞章の謎」「音楽でつづる文学」「紀尾井たつぷり名曲」「午後の音楽会」など、様々な視点と斬新なアプローチによって、日本の伝統芸能ジャンルの真価と可能性を探求する意欲的な公演を開催してきた日本製鉄文化財団が、全く新たなシリーズとなる「邦楽 明日への扉」を来年1月からスタートします。

このシリーズでは、邦楽の様々なジャンルの最前線で活動している若い世代の演奏家たちに焦点を当て、今まさに旬を迎えているその真摯な演奏を、本格的なリサイタル・ステージ形式で開催することで、舞台を作り上げ、お客様と豊かに交歓していくことを目指していきます。その第1回は、杵屋佐喜さん、稀音家六四郎さんによる「長唄の世界」、第2回は、邦楽器による新しい時代の音楽を創り続けている「邦楽四重奏団」を取り上げることが発表されました。

杵屋佐喜さんは、この世代の長唄唄方を牽引するひとり、歌舞伎公演や日本舞踊の会で佐喜さんの演奏に触れた方々も多くおいでのことと思います。佐喜さんは、長唄古典の継承に強い意欲を示すとともに、創作作品への取り組みも高く評価されています。その一番の魅力は、味わい深い声質と、一点迷うことのない細やかな

詞章表現にあります。古典はもとより舞踊界・創作邦楽界で現在引張りだこの所以です。稀音家六四郎さんも長唄界のこの世代のトップランナーのひとり、佐喜さんと同じく江戸時代から続く長唄界の名門の生まれです。50代の若さで亡くなった父・五代目の名跡を継がれました。六四郎さんの演奏の魅力は、確実かつ華麗な技巧に加え、その音色が醸し出す古典ならではの味わいがあります。

長い年月を経た伝承を今に伝える長唄界にも会派・流派が厳然と存在しています。実際に、佐喜さんと六四郎さんは異なる会派の所属ですので共演の機会は得難いのですが、「邦楽 明日への扉」第1回公演では、唄方と三味線方の若き演奏家二人の競演が実現します。

演目にも趣向が凝らされています。佐喜さんの高祖父にあたる四世杵屋佐吉は、大正昭和前期の長唄界において箏の宮城道雄に比肩する活躍で、楽器改良や長唄界の大きな改革をもたらしました。その四世佐吉が創作した「芙蓉曲」を佐喜さんと特別出演のメゾソプラノ・湯川亜也子さんが、そして六四郎さんの曾祖父、二世稀音家浄観が作曲した「神田祭」を六四郎さんが、それぞれ演奏します。そして最後は二人が今一番取り組みたい大曲「船弁慶」。どのような競演をみせてくれるでしょうか。

「邦楽四重奏団」は、東京藝術大学邦楽科を卒業した4人からなるアンサンブルで、箏・三絃・十七絃・尺八をメインとする楽器構成となつています。箏を平田紀子さん、三絃を寺井結子さん、宮城道雄が創作した十七絃を中

島裕康さん、そして尺八を黒田鈴尊さんが担当することが多いようですが、箏曲ジャンルでは、演奏家は三絃・箏のいずれも演奏することが求められ、黒田さん以外の3名の方々は、箏も三絃も自由自在に演奏されます。「邦楽四重奏団」は、「日本の伝統楽器で今」とこれからの音楽を創ることをコンセプトに、作曲家との共同活動をベースとする「新作委嘱」、いわば古典となりつつある「現代邦楽作品」の再演、そしてその根幹となる「古典三曲合奏」の三つの視座をもって活動している若きチャレンジャー。今回のプログラムでもその魅力は遺憾なく発揮されます。古典からは「松竹梅」、現代邦楽からは「尺八と二面の箏と十七絃のための巫覡」をはじめ4曲、そして彼らの委嘱作品「邦楽四重奏曲」を披露します。楽器の持つ様々な魅力の再発見になることでしょう。

インターネット放送やYouTube



杵屋佐喜

稀音家六四郎





左から寺井結子 中島裕康 平田紀子 黒田鈴尊



によつて様々なジャンルの映像や音楽を、好きな時間に視聴場所も選ばず、繰り返し何度でも自由に楽しめる時代になりました。けれども日本の伝統芸能は、このような技術改革やインターネット時代の恩恵をなかなか受けることのできない存在になっています。伝統芸能ジャンル／実演家へのサポートは少なく、経済的にも成り立ちにくい邦楽演奏会への支援は限りなく足りません。若い世代の多くの演奏家が、この「経済の壁」に深刻に直面している中で、この「邦楽 明日への扉」シリーズは、明日に向かって伝統を繋げていく若い世代の演奏家たちの大きな目標となることと思います。

文／藤本草（ふじもと そう）
音楽プロデューサー
（公財）日本伝統文化振興財団顧問

邦楽
明日への



日本伝統芸能の音楽家に焦点を当て、「いま」を作り上げていく演奏家を応援する新シリーズ

第2回 邦楽四重奏団

東京芸術大学出身、古典にも現代曲にも通じる4人による邦楽四重奏団は2011年に結成されました。作品のコアを残せる形態としての四重奏への熱意が4人を衝き動かし続けています。古典から下山一二三・野田暉行ら邦人現代作曲家はもちろんクセナキスまで、「いま」の感性で邦楽を追求する箏・三味線・尺八の四人組。団のベスト・プログラムを選び抜いて11年目の集大成、ご期待ください。

出演 邦楽四重奏団

曲目 ミツ橋句当：松竹梅

下山一二三：尺八と二面の箏と十七絃のための巫覡(カンナギ)

野田暉行：尺八、二面の箏のための「春の調」

クセナキス：《入陽》

旭井翔一：邦楽四重奏曲



2023
2/25
14:00

第1回 杵屋佐喜・稀音家六四郎

美声が心揺さぶる杵屋佐喜と、正統派の風格ただよう稀音家六四郎が登場。それぞれ「家」の芸を大切に守りながら精力的に活躍するふたりの長唄の世界にご案内します。長唄をコンパクトに、初めてでも聴きやすくまとめた芙蓉曲は、邦楽版「みんなのうた」ともいえそうです。

神田祭は今に息づく江戸・東京の風物詩。日本人の魂が騒ぐことまちがいありません。最後は圧巻の大曲・船弁慶。佐喜・六四郎の丁々発止のやり取りをお楽しみください。

出演 杵屋佐喜(唄)

稀音家六四郎(三味線)

福原百之助(囃子)

湯川亜也子(メゾソプラノ) ほか

曲目 芙蓉曲より

「案山子」「鈴鹿時雨」

「浮かれ黒猫」

長唄「神田祭」 ほか



2023
1/8
14:00

料金：全席指定

2公演セット券 5,000円 各回 3,000円 各回U29席 1,000円

発売開始：2公演セット券 10月27日(木)

第一回公演券 11月10日(木)

第二回公演券 12月8日(木)

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

写真すべて © 堀田力丸

鍵盤を

めぐる

3話

18世紀には様々な鍵盤楽器があった。金属の小さな棒で弦をつつくクラヴィコード、鳥の羽根の軸ではじくチェンバロ、ハンマーで叩くフォルテピアノなどそれぞれ発音の仕方は異なるが、どれも他に代えがたい魅力がある。

1 CPEバッハの 真夜中のクラヴィコード

18世紀後半のイギリスの音楽史家バーニーが、1772年10月にバッハの息子のカール・フリードリッヒ・エマヌエルをハンブルクに訪ねた時のことを『音楽見聞録』（春秋社）に綴っている。優雅な夕食でもてなされ、主人自らクラヴィコードによる即興演奏を聴かせてくれた。バッハの音楽への没入度は凄まじく、目は虚空を見つめ、時に興奮し、演奏は深夜11時まで続いた。「近所迷惑？」と思われるかもしれないが心配ご無用。クラヴィコードは世界一音の小さな楽器といわれているからだ。実際、日本の家屋で激しく弾いても隣の

部屋にはまったく聴こえない。絶対的な音量こそ小さいものの、柔らかなサウンドは聴き手の肌にじんわりと浸み込むかのよう。繊細で多彩な表現が可能でヴィブラートもかけられる。でも周囲は静かであればならない。それも電気ノイズが気になるほどの。蝋燭の灯りがふさわしいが、これはチェンバロやフォルテピアノにも言える。

2 修道院に響くチェンバロ

ある年の初夏にフランス、アルザス地方のコルマールに出かけたときのこと。中世やルネサンスの家々が立ち並ぶ絵のように美しい町には、当地の古い修道院を利用した博物館があり、17世紀のチェンバロの名器ルツカウスが展示されている。その楽器で家喜美子さんが録音するというので立ち会ったのだ。昼間はグリューネヴァルトの《イーゼンハイムの祭壇画》等の名画を目当てに大勢の観光客で賑わうので録音は日没から深夜まで。立会人は数名の関係者のみ。やはり電気ノイズを避けるために明かりは楽器の周囲にごく僅か。中世の宗教美術に囲まれた石造りの院内にバッハや17世紀の音楽が鳴り響く。そのとき筆者は初めてチェンバロの本質に触れたと思ったものだ。今でも家喜さんのCD「涙のパヴァーヌ（レグルス）を聴くと当時の記憶がまざまざと蘇ってくる。

3 フォルテピアノ奏者は大変

個人的な話で恐縮だが、我が家にはフォルテピアノ奏者が一人いる。拙宅にブラハのヴァイメス（1811年製）が来たときの話。オランダの修復家が東欧の田舎のどこかの納屋で見つけ、修復してくれたのだ。アクシオンは現代のピアノとは別系統のウィーン式で6オクターヴ。膝挺式ペダル（膝で押し上げる方式）はダンパーと柔らかな響きになるモデレーター。1811年といえばナポレオン戦争ただ中。歴史の生き証人みたいなので、この楽器が来た頃は夜中に何度か亡霊を見たような気がして怖かった。ほぼ百パーセント木製で平行弦（現代ピアノは交差弦）なのでダンパーを用いても響きが濁らないし、小さな木片に薄い革を巻いただけの軽いハンマーが弦を打つと人のお喋りのように聴こえる。この楽器でベートーヴェンやシューベルトを弾くとまさにサイズの合った服を着たようなびびり感がある。これぞフォルテピアノの醍醐味なのだが、残念なことも。より音域のひろい曲は鍵盤が足りないで弾けないし、作品のスタイルと楽器の響きが合わないし、酷い違和感を感じるのだ（その点モダンのピアノはどんな曲でも弾ける）。かくしてフォルテピアノ奏者は複製も含めて次々と楽器を増やしていくことになる。シューマン、ショパン、それ以前のモーツァルトのピアノ…し



© Paul McNulty fortepianos
アントン・ヴァルター・モデルのフォルテピアノ

かも一つ一つが大きくて場所を取るし、湿度や気温の変化に極度に弱いので生活は楽器中心。コンサートや録音には会場に運ばなければならない。フォルテピアノ奏者は大変なのだ。

文／那須田 務

鍵盤をめぐる紀尾井ホール公演

マクシム・エメリヤニチェフ 3種鍵盤 モーツァルト・リサイタル

【使用楽器】

モダンピアノ：スタインウェイ
フォルテピアノ：アントン・ヴァルター・モデル
チェンバロ：ミートケ・モデル

11/6
14:00

【曲目】オール・モーツァルト・プログラム
幻想曲ハ短調 K.475 (フォルテピアノ)
ソナタ第14番ハ短調 K.457 (フォルテピアノ)
ソナタ第16番ハ長調 K.545 (チェンバロ)
ロンド イ短調 K.511 (フォルテピアノ)
ソナタ第18番ニ長調 K.576 (モダンピアノ)

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

邦楽主催公演

2022

年度下期 ラインナップ

2022 12/17 (土) 14:00

源氏物語 音楽でつづる文学5 葵上と六条御息所



【出演】春日とよ菜芝(唄)、春日とよ喜扇弥(糸)、山口崇(チレリシヨ) 山勢松韻、山勢麻衣子、奥山益勢(箏) 山登松和(三絃)、福原徹笛、井上八千代(立方) 富山清琴(三絃)、富山清仁(箏)、野川美穂子(お話) 【曲目】『源氏物語』に描かれる葵上と六条御息所 北條秀司作『小唄源氏物語より』夕顔「三つの子」六条御息所 山田流箏曲「葵の上」 京舞「葵上」

源氏物語絵巻紙帖 葵 土佐光吉筆 (京都国立博物館所蔵)

2023 1/8 (日) 14:00

邦楽明日への扉1 柀屋佐喜・稀音家六四郎(長唄)

【出演】柀屋佐喜、柀屋正則、柀屋勝英治、柀屋巳津二郎(唄) 稀音家六四郎、松永忠三郎、柀屋勝国悠、柀屋正毅(三味線)、 湯川亜也子(メゾソプラノ) 福原百之助連中(囃子) 【曲目】芙蓉曲より「案山子」鈴鹿時雨「浮かれ黒猫」 長唄「神田祭」船弁慶



© 堀田力丸

2023 2/25 (土) 14:00

邦楽明日への扉2 邦楽四重奏団(三曲)

【出演】邦楽四重奏団 箏・三絃 十七絃 平田紀子、寺井結子、中島裕康 尺八 黒田鈴尊 【曲目】「松竹梅」下山「二三」尺八と二面の箏と十七絃のための巫覡カンナギ 野田暉行「尺八、二面の箏のための春の調、クセナキス(八陽) 旭井翔二「邦楽四重奏曲」



© 堀田力丸

2023 3月 予定

浮世絵で楽しむ邦楽 大谷コレクシヨンII 河竹黙阿弥の女たち

ホテル・ニューオータニやテアター・オーシーを創業した大谷家が所蔵する大谷コレクシヨンから、音楽を題材とした浮世絵とともに邦楽作品をお楽しみいただきます。(詳細が決まり次第、紀尾井ホールウェブサイトに発表します)

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

紀尾井ホール室内管弦楽団 公開リハーサル(1/19)に400名様をご招待

速報

当財団では「紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)特別演奏会ニューイヤー・コンサート2023」のリハーサルを一般公開します。普段なかなか見ることができない「指揮者とオーケストラの音楽づくり」を間近で体験することを通して、多くの皆さまに、ホールとオーケストラに親しんでいただく機会となればと願っています。東京の中心に位置し、音楽ファンはじめ多くの皆さまから支持を頂いている抜群の音響空間でKCOの卓越した響きの秘密を明かします。奮ってご応募ください。

開催日/2023年1月19日(木) 16:30~17:30を予定 応募方法など詳細は、紀尾井ホールウェブサイトで発表します。

オススメ!

ぜひ「紀尾井ホール・ウェブチケット」にご登録を! メールマガジンで詳細情報をお届けいたします!



紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・株式会社)等表記及び敬称略)

- 《特別協賛会員》日鉄ソリューションズ/三菱商事/三菱地所 《みやび会員》伊藤忠商事/大島造船所/KDDI/商船三井/菅原/住友商事/日本郵船/丸紅/三井住友銀行/三井物産/三井不動産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほか匿名2社 《ひびき会員》オカムラ/高砂熱学工業/竹中工務店/東京きらぼしフィナンシャルグループ/山下設計 《みどり会員》青鬼運送/赤坂維新號/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/NTTドコモ/荏原冷熱システム/鹿島建設/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/西武リアルティソリューションズ/大成建設/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/三井住友信託銀行/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージション/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/ワークショップ21 《おおい会員》青木陽介/浅見 恵/石崎智代/磯部治生/伊藤真理子/井上善雄/馬屋原貴行/大内裕子/大垣尚司/大久保なほ子/太田清史/岡田章一/小川 保/小樽茂稔/糟谷敏秀/片山國正/片山能輔/加藤巻惠/神谷昌孝/川口祥代/菊池恒雄/木谷 昭/久保祐子/栗山信子/河野紗妃/小西美由紀/斎藤公善/坂詰貴司/佐久間庸行/佐部いこ子/潮崎通康/清水 正/清水多美子/清水康子/白土英明/末岡明武/鈴木順一/鈴木 亮/高下諺香/武上由佳/田中 進/外山雄三/内藤美奈子/中塚一雄/中西達郎/中村健司/名取正夫/西村剋美/西村 清/原田清朗/日原洋文/北條哲也/堀川将史/牧本恵美子/松枝 力/松本美恵/丸井正樹/簗輪永世/宮島正次/宮武悦子/宮原 薫/宮本信幸/植田 実/村上喜代次/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/山内寿美/横手 聡/吉峯裕毅/渡辺弘次 ほか匿名39名 計220口 (2022年10月1日現在)

特別支援会員 (五十音順・株式会社)等表記略)

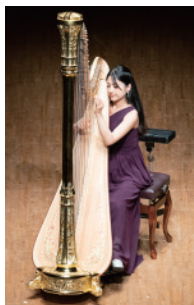
- アステック入江/五十鈴/NS建材薄板/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/王子製鉄/大阪製鐵/九築工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/小松シヤリング/山九/産業振興/三晃金属工業/サンユウ/三洋海運/山陽特殊製鐵/ジオスター/新日本電工/スガテック/大同特殊鋼/大和製罐/高砂鐵工/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/電機資材/東海鋼材工業/東邦シートフレーム/トピー工業/日亜鋼業/日鉄SGワイヤ/日鉄エンジニアリング/日鉄片倉鋼管/日鉄環境/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋳業/日鉄工材/日鉄鋼線/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄スチール/日鉄ステンレス/日鉄ステンレス鋼管/日鉄精圧品/日鉄精鋼/日鉄精密加工/日鉄総研/日鉄ソリューションズ/日鉄テクノロジー/日鉄テックスエンジ/日鉄ドラム/日鉄物産/日鉄物流/日鉄物流君津/日鉄物流八幡/日鉄保険サービス/日鉄ポルテン/日鉄溶接工業/日本金属/日本触媒/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/幕張テクノガーデン/松菱金属工業/三島光産/宮崎精鋼/吉川工業/ワコースチール 日本製鉄 (2022年10月1日現在)

フォトレポート 最近の公演から ～ お客様アンケートより ～

7.28(木) 紀尾井 明日への扉 第31回 田中 渚(ハープ)

三菱地所 presents

- 田中渚さんの演奏が大変にダイナミックでのびのびとしていて曲目も魅力的でした。迫力ある演奏を長時間聴けて、心より感謝です。
- ハープのソロ演奏を聴くのは初めてで美しい豊かな音に驚きました。次回のリサイタルもぜひ聴きたいです。
- これからの活躍が期待できる田中渚さんの演奏、本当に良かったです。ハープのソロ演奏を今後もっと聴いてみたいと思いました。
- 意欲的なプログラムでハープの音色を楽しめた。



© 堀田力丸

9.9(金) 紀尾井 明日への扉 第32回 吉見友貴(ピアノ)

三菱地所 presents

- 聴くたびに成長を感じさせてくれる吉見さんの演奏、素晴らしかったです。ピアノのリサイタルにはやはり紀尾井ホールが最高です。定期的に紀尾井ホールで吉見さんのリサイタルをしていただき彼の成長を見続けたいです。
- 健康的でエネルギー、瑞々しい演奏。どの曲にも音楽の喜びが感じられた。
- 多彩な演目に、若さ溢れる躍動感のある演奏に元気をもらいました。
- 紀尾井ホールで演奏できて幸せだと仰っていたお顔が、達成感で満ち溢れていたのが印象的でした。



© 武藤 章

9.10(土) 紀尾井たっぷり名曲5 清元「須磨の写絵」
清元志寿雄太夫×清元志寿造

- 品のいい綺麗な劇場で、素晴らしい演奏を聴き、豊かな気持ちになりました。これからもどんどんこういう企画を。
- 児玉さんのお話分かり易くて楽しかった。演奏がすばらしかった。これからも「たっぷり名曲」を楽しみにしています。
- 素浄瑠璃は初めてでしたが、とても素敵でした。また清元の公演がありましたら鑑賞したいと思います。
- 事前のレクチャーも楽しく、演奏は素晴らしく、大満足です。



記録用にマスクを外して撮影しました。

© ヒダキトモコ

9.23(金)・24(土) 紀尾井ホール室内管弦楽団
第132回定期演奏会

- 天才ピアニストの演奏が期待以上だったこと、久々のパラホフスキーさんのコンマスもピノックさんとの相性抜群で全体的に清々しい印象でした。
- 各パートが美しく融合したKCOの安定した響き、若きピアニストの卓越した技術と類を見ない音楽性に圧倒されました。観客との一体感を大切にされる方が首席指揮者に就任され、これからの定期演奏会がとても楽しみです。
- ピノック氏の指揮を数年振りに見聴きすることができ、成熟しても変わらない音楽性と人間性に心を打たれました。



© ヒダキトモコ

今号の表紙

『ヴィオラとガーベラ』

【協力】 花/hanadouraku
ヴィオラ/中村智香子

花言葉は「冒険心」や「希望」など前向きで上を向いて花を咲かせ、だれにでも愛されるガーベラ。隣は紀尾井ホール室内管のメンバー・中村智香子さんのヴィオラです。20年以上共に過ごしつつも助けて

くれる相棒は、何とイタリアのマッテオ・ゴフリラー作 1700年代生まれの大先輩だそう! 自分の一部分だという「うちの子」は「ボディのシルエットが大変美しい」と改めて目を細める様子が印象的でした。

公式 SNS で最新情報配信中



紀尾井ホール

チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>

紀尾井ホール室内管弦楽団

公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号 TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527 <https://kioihall.jp>

